

1-1 建物概要

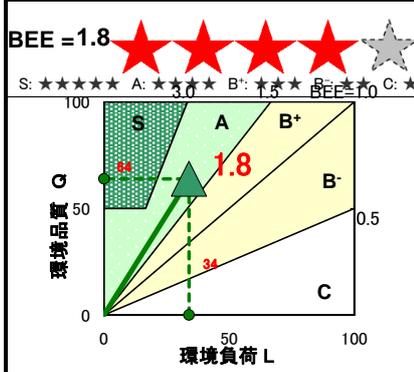
| | |
|------|----------------------|
| 建物名称 | (仮称)茅ヶ崎市宮小和田住宅外複合施設 |
| 建設地 | 茅ヶ崎市小和田三丁目401番3外 |
| 用途地域 | 準工業地域、第一種住居地域 |
| 地域区分 | 6地域 |
| 建物用途 | 学校,ホテル,集合住宅,等 |
| 竣工年 | 2020年9月 予定 |
| 敷地面積 | 2,321 m ² |
| 建築面積 | 1,004 m ² |
| 延床面積 | 3,710 m ² |

| | |
|--------|-----------------|
| 階数 | 地上6F |
| 構造 | RC造 |
| 平均居住人員 | 50 人 |
| 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 評価の実施日 | 2018年2月27日 |
| 作成者 | 株式会社洋建築企画 |
| 確認日 | 2018年2月28日 |
| 確認者 | 株式会社洋建築企画 |

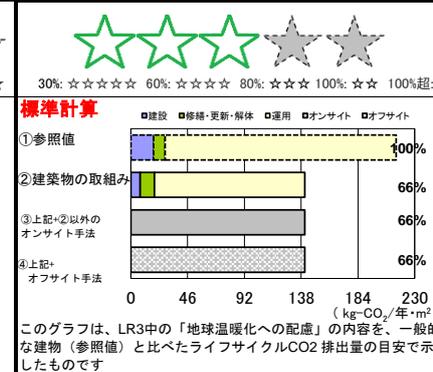
1-2 外観



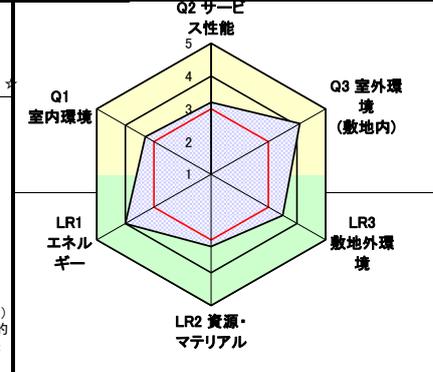
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



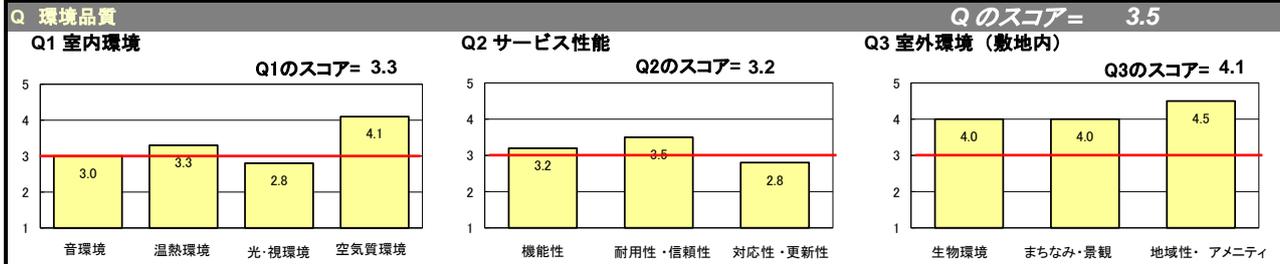
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

| | |
|---|---|
| <p>総合</p> <p>1階を地域に開き複合した施設にすることで市営住宅を地域の中に共存させ、地域コミュニティと見守りのある安全な生活の場となり、多世代が自然に交流できる場所となるように計画した。</p> | <p>その他</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>市営住宅部分は断熱等性能等級4を取得している。化学汚染物質に配慮し、全面的に建築材料はF☆☆☆☆を採用、低VOC建材を採用している。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>市営住宅は高齢者が多くなることが想定され、1階部分は不特定多数の人が利用するので、極力段差のない、バリアフリーに配慮した設計としている。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を積極的に利用し省エネルギーに努める</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上げ材料を分離する設計としている。また、PRTR法に該当しない建材種別が4つ以上ある。</p> |
| <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>集会所やエントランスロビーは地域の人も利用できるようにした。 外部のみんなのひろばからエントランスロビーへの出入口は大開口とし、内部空間と連続して利用できるようにした。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>光害に配慮して周囲への光の漏れを低減する為に「光害配慮型軒下用LEDシーリングライト」を採用した。</p> |

3 設計上の配慮事項

| | |
|---|---|
| <p>総合</p> <p>1階を地域に開き複合した施設にすることで市営住宅を地域の中に共存させ、地域コミュニティと見守りのある安全な生活の場となり、多世代が自然に交流できる場所となるように計画した。</p> | <p>その他</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>市営住宅部分は断熱等性能等級4を取得している。化学汚染物質に配慮し、全面的に建築材料はF☆☆☆☆を採用、低VOC建材を採用している。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>市営住宅は高齢者が多くなることが想定され、1階部分は不特定多数の人が利用するので、極力段差のない、バリアフリーに配慮した設計としている。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明を積極的に利用し省エネルギーに努める</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上げ材料を分離する設計としている。また、PRTR法に該当しない建材種別が4つ以上ある。</p> |
| <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>集会所やエントランスロビーは地域の人も利用できるようにした。 外部のみんなのひろばからエントランスロビーへの出入口は大開口とし、内部空間と連続して利用できるようにした。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>光害に配慮して周囲への光の漏れを低減する為に「光害配慮型軒下用LEDシーリングライト」を採用した。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される